

# 日野市の今後の財政収支見通し ～今後3年間で想定される財政状況～

令和元年6月 財政課

## ●財源が“約100億円”足りません!!

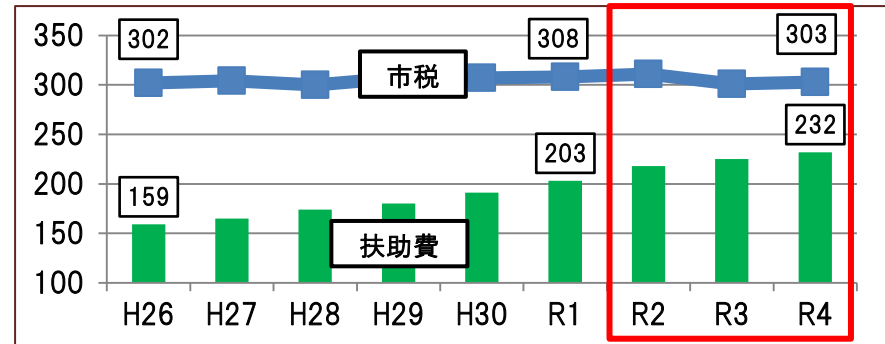
(単位:億円)

年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	3年間合計
歳入	688	663	662	671	1,996
歳出	688	682	706	708	2,096
財源不足額	0	▲ 19	▲ 44	▲ 37	▲ 100

- 推計期間の3年間に於いて、財源不足額は合計で、**約100億円**になることが見込まれます
- 仮に財源不足を補うため、**基金の取崩しを増やした場合、令和4年度には基金が枯渇し、予算が組めません**
- ※財政調整基金残高：約30億円（令和元年度当初予算編成後）

- 根幹となる市税収入は“約5億円”の減収
- 義務費である扶助費は“約30億円”の負担増

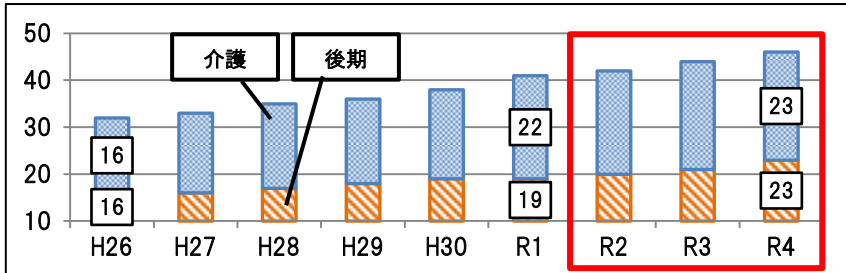
(単位:億円)



- 歳入予算の根幹である「市税」は、納税義務者数などの増要因はあるものの、法人税率の税率引き下げをはじめとした税制改正の影響などから、**ほぼ横ばいの状況が続く**ものと見込んでいます
- 義務的経費の半分以上を占める「扶助費」は、高齢化の進展などの影響で右肩上がりの状況が続き、**令和4年度は令和元年度と比較して、約30億円以上増加**することが見込まれます

## ●“2025年問題”の影響はすぐそこまで来ています

(単位:億円)



- 高齢化の進展などを受け、「**介護保険特別会計**」及び「**後期高齢者医療特別会計**」への繰出金は年々増加しています
- 今後、“**2025年問題**”などから、この状況はより顕著になることが見込まれます。

## ●このままでは予算が組めません!!

- 上記の「市税」と「扶助費」の見通しから、今後3年間の累計で一般財源は、**約14億円の負担増**が見込まれます
- この額は、令和元年度の“**経常経費**”の**約10%**に相当し、現状のまま、この14億円の負担増を賄うためには**経常経費を毎年3%以上削減**することが必要であり、**全ての事務事業に対する根本的見直し（廃止・統合）が急務**です